

3. 歩数向上に係る指標の考え方

～ 持続可能な公共交通体系の構築に向けて ～

指標設定の考え方

- 現状の新潟市における平均歩数は、全国平均と比較しても少ない状況にある。
- 歩数の上昇により、健康増進や医療費削減など、副次的な効果にも期待が出来る。

車通勤の割合と一日当たりの歩数とは負の相関関係にある※1

※1 出典：室町泰徳：通勤者の交通手段選択と健康、IATSS Review Vol. 33, No. 3 「かしこい」クルマの使い方を考える, 2008



車から公共交通への利用転換により、歩数の上昇に期待が出来る

1 日当たり平均歩数

単位：歩／日

	男性		女性	
	15 歳以上	70 歳以上	15 歳以上	70 歳以上
新潟市	6,401	4,440	5,990	3,305
全国	7,074	5,102	6,006	3,790

新潟市：平成 19 年市民健康・栄養調査

全国：平成 20 年国民健康・栄養調査

1 歩 = 0.061 円の医療費削減効果※2

※2 出典：筑波大学 久野教授の研究より

仮に 15 歳～69 歳の方の歩数が全国平均程度まで上昇した場合

男性	274,535 人	【歩数：男性】 6,401 → 7,074	約 1.85 億円/日
女性	276,437 人		
計	550,972 人	—	【計】 約 1.89 億円/日

■仮に 15 歳～69 歳の方の歩数が全国平均程度まで上昇した場合、1 日で約 1.89 億円の医療費削減効果を算定することが出来る。(医療・福祉への貢献)

(新潟市の 15 歳～69 歳人口は、平成 27 年 12 月末時点の住民基本台帳人口)